

□■受験対策ミニ講座 12号 2019□■

いよいよ12月。何かと気ぜわしい時期ですが、うまく時間をやりくりして、集中力を高めましょう。外出時には風邪予防のマスクを忘れず、ポケットには小さなサイズの受験対策本を入れて、ちょっとした時間を有効に使いましょう。

今回からは、得点に結びつきやすい問題や確実に得点する方法などをご紹介します。引き続き、各自、基礎的な知識をしっかり固める努力をコツコツ続けながら、こちらの方にもちょっと、お付き合いください。

【31回40 地域福祉の理論と方法（一部要約）】

P市の社会福祉協議会のC相談員は、民生委員から30歳で失業して以来、親と同居して20年以上ひきこもっているケースを相談された。C相談員は他にも同じような人がいるのではないかという考えを市の担当課に伝えたところ、市はC相談員に総合的なひきこもり対策を検討するよう依頼した。次のうち、C相談員の対応として適切なものを2つ選びなさい。

- 1 学校や地域若者サポートステーションと役割分担し、40歳以上の人限定した対策を考えるために関係者に集まってもらう。
- 2 民生委員児童委員協議会と協働して実態調査を実施する。
- 3 ひきこもりの人たちが参加しやすい場づくりが必要と考えて、市内のボランティア組織の会長に相談する。
- 4 ひきこもり対策は保健師の対応が適切であると考えて、保健センターに対策を任せる。
- 5 親が要介護であるなど、支援の必要性が高い場合に限り対応する。

正解と解説は最後に記載しています。

■Plus Column

【どんな視点でいつ・いくつ】

事例問題には、いくつかのタイプがあります。出題される科目によっても特徴があるので、タイプ別、科目別の対応を身につけておきましょう。

例年、5科目の「地域福祉の理論と方法」に最初の事例問題が登場しています。この科目に多いのは、社会福祉協議会に配置されている地域福祉コーディネーター、ボランティアコーディネーターなどの専門職員や、地域包括支援センターに配置されている社会福祉士の役割を問うパターンです。共通しているのは、科目名でもある「地域福祉」という視点です。同様のタイプは「相談援助の理論と方法」にも登場しますが、とりあえず「地域福祉型事例問題」と名付けましょう。

このタイプの事例問題のポイントは、「地域福祉推進」という視点を忘れないことです。選択肢の中に個別対応が含まれていることがあり、それ自体が間違っているわけではないので迷いがちです。しかし、設問に立ち戻ると、地域にネットワークを構築していく方向が正解である可能性が見えてきます。

二つ目のポイントは「現段階で」のような「いつ」の設定です。どの事例問題にも共通しますが、一般的には正しい対応のように思えても、「今、この段階で優先して行うべきこと」なのかどうかという判断が求められます。

三つ目のポイントは最終的にいくつ選ぶのかということ。「最も適切」では最優先課題を1つ選びますが、「適切なものを2つ選べ」という場合もあるので、注意が必要です。これもすべての事例問題に共通しますね。このようなことに気をつければ、「地域福祉型事例問題」はさほど難解ではありません。常識の範囲内で解ける問題が多いので、あわてず冷静に設問を読むことを心がけてください。

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686

【31回40：解説と正解】

「適切なもの2つ」選びましたか？この問題では「任せる」「限って」など×選択肢に多いキーワードが目立ちました。

1× 「総合的なひきこもり対策」なので、40歳以上に限定することは適切ではないと判断します。

- 2○ 対策を検討するためにはアセスメントが必要です。
- 3○ 地域ネットワークづくりにつながります。
- 4× 保健センターに「任せる」は適切ではない、と判断します。
- 5× 「支援の必要性が高い場合に限る」が適切ではない、と判断します。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus